

CITY OF YOKOHAMA

新たな都市デザインあり方検討 (審議)

都市整備局 都市デザイン室

2024. 1. 26 都市美対策審議会 政策検討部会

新たな都市デザインあり方検討の全体像

これまでの都市デザイン

理念

個性と魅力ある
人間的な都市空間の創造

7つの目標

1. 歩いて楽しい
2. 地形や風土を大切に
3. 歴史や文化を大事にする
4. 緑を豊かにする
5. 水辺を大切に
6. 人が集う広場を増やす
7. 人の心を動かす美しさ

実践



50周年まとめ (令和4年度)

これまでの
「振り返り」

現状の市民の評価、50年の
変化を総まとめする

これからを考える
「未来会議」

市民と新たな潮流をつかみ
これからの視点を探る

新たな都市デザイン (令和5年度)

理念

個性と魅力ある
人間的な都市空間の創造

7つの取組み姿勢

今後の 具体的取組

理念

『個性と魅力ある人間的な都市空間の創造』

⇒横浜の都市デザインそのものとして継承。「人間的」には**多様化した価値観**への対応も意識する

意義

個性と魅力ある人間的な都市空間によって

- 都市の価値を高める
- そこで出会い、ふれ合う人々のまちへの愛着や誇り（シビックプライド）を育み、引き継ぐ
- **地域のアイデンティティを磨き市内各地の魅力的な暮らしの選択肢を増やす**

→個々人の自分らしい暮らしにフォーカスし、都心部の取組みを継続させつつ**都心近郊・郊外への展開**を進める

7つの取組み姿勢

1. 自然や歴史、地域の個性を未来に引き継ぐ
2. **その人らしくいられること**や個々人の暮らしに寄り添う
3. 様々な主体や分野を横つなぎにして、まちの魅力を高める
4. 地域の主体性や創造性が発揮できるよう、環境を整える
5. 実験的な新しい取組みを、積極的にすすめ、サポートする
6. エリアコンセプトを描き、共有する
7. 美しい、楽しいといった人の心を動かす都市をつくる

令和4年度 未来会議より

社会背景

- ①生物多様性・循環型社会・自然との共生への対応
- ②防災・減災・レジリエンス、気候変動への対応
- ③少子高齢化社会のケア、**子育て・子育て***など**別領域との連携**
- ④**価値観の多様化をふまえた**新たなコミュニティの創造
- ⑤新たな暮らし方に応じた身近な生活圏のデザイン

7つの取組み姿勢について

横浜市はあらゆる主体と共に都市デザインに取り組みます。

これからの 7つの取組み姿勢

これからも
大事にする
価値、目標

1. 自然や歴史、地域の個性を未来に引き継ぐ

多様化への
対応

2. その人らしくいられることや個々人の暮らしに寄り添う

大切に
する
価値観や
進め方

3. 様々な主体や分野を横つなぎにして、まちの魅力を高める

4. 地域の主体性や創造性が発揮できるよう、環境を整える

5. 実験的な新しい取組みを、積極的にすすめ、サポートする

6. エリアコンセプトを描き、共有する

最終的な
到達目標

7. 美しい、楽しいといった人の心を動かす都市をつくる

これまでの 7つの目標

1. 歩行者活動を擁護し、安全で快適な歩行者空間を確保する

2. 地域の植生や地形など、自然的特徴を大切にする

3. 地域の歴史的・文化的資産を大切にする

4. オープンスペースや緑を豊かにする

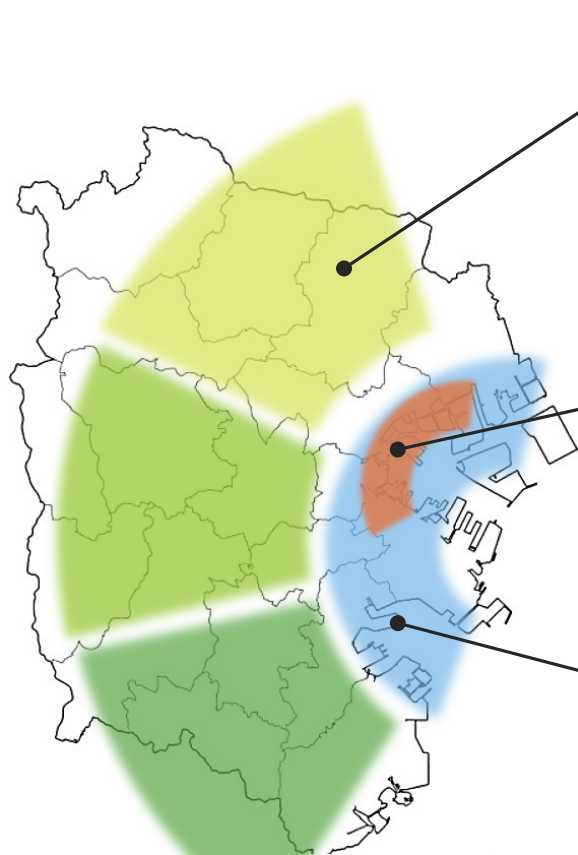
5. 海、川などの水辺空間を大切にする

6. 人と人がふれあえる場、コミュニケーションの場を増やす

7. 形態的、視覚的美しさを求める



今後の具体的取組みの展開



テーマ
1

住宅地から
「多様なライフスタイルを
かなえるまち」へ

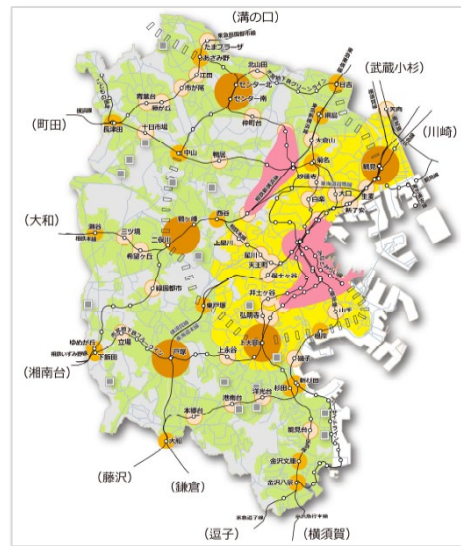
テーマ
2

都心部での
継続的・発展的な展開

テーマ
3

海をひらく

都市計画マスタープランの改定の基本的考え方
について（答申）より【暮らしの方針図】



- | | |
|---|---|
| 都心 | 地域拠点 |
| 都心・臨海周辺部
：市街化調整区域 | 交通結節機能の高い拠点駅 |
| 郊外部
：市街化調整区域 | 利便性の高い鉄道駅 |

住宅地から「多様なライフスタイルを支えるまち」へ

多くの市民の“暮らし”を支える郊外住宅地。画一的に開発された地域も、時を経て個性が生まれつつあり、価値観が多様化しているこの時宜を捉えて、その地域ならではの「ライフスタイルを支えるまち」を実現していく。

- ◆ 住宅地にひろばやコワーキングスペース、小商いの場所をつくる
- ◆ 水や緑の価値を高め、市民とのタッチポイントを増やす
- ◆ 自立的な、学びや遊びの機会、場所を増やす
- ◆ デザインによって価値を高め、循環型社会につなげる「アップサイクルのまちづくり」

機会

- ・空き家、空き地、団地再生
- ・働き方、住まい方の変化
- ・廃校、歴史的建造物の滅失
- ・新たな市民活動の盛り上がり

先行事例



↑ フォレストアドベンチャー（緑とのタッチポイント）
（画像）グルヌイ・エン지니어リング株式会社HP



↓ 野七里テラス（企業と戸建て住宅地の協働）
（画像）大和ハウスHP



↑ 左近山団地（拠点・ひろば・アートによる団地再生）
（写真提供）abanba



↓ 川の図書館（ライフスタイルの公共空間への露出）
（画像）ちよみつとHP



↑ 小商いの建築（多用途/地域に開かれた住宅建築）
（画像）書籍：小商いの建築、街を動かす

都心部での継続的・発展的な展開

街の個性である歴史や創造性を生かしたまちづくり、連続する歩行者空間、公共空間の積極的な利活用などをテーマに、これまで都心部で重点的に取り組んできた都市デザインを継続していく。

さらに発展的な都市デザインの実践として、ウェルビーイングや環境共生などこれからの視点を持ち、横浜市全体をけん引する役割を果たしていく。

- ◆ 新たな景観的価値としての環境共生のまちづくり
- ◆ 誰もが使えるウェルビーイングな場が点在するまちづくり
- ◆ 歴史を生かしたまちづくりの新たな展開
- ◆ エリア間の接続性や、回遊性の改善によるホスピタリティの向上

機会

- ・関内駅前の連続した開発
- ・エリアマネジメントの機運の高まり
- ・環境配慮
- ・情報技術の向上
- ・戦後建築への期待感

先行事例



社会実験「ハマウェル」

Plateauタンジブルインターフェイス
画像：国土交通省HP



山下公園通りの歩行者天国社会
実験（画像：ヨコハマ経済新聞）

ポートプラス（景観×環境配慮）



防火帯建築（歴史をいか
したまちづくりの新展開）

横浜の大きな魅力資源である海や港などの水辺空間。都心部ではウォーターフロントの軸線として、公共空間や歩行者ネットワークの拡充を図ってきた。

しかし、依然として都心部以外は市民が水辺に近づけないことから、様々な契機を捉えて、市民の様々な活動の場として「海をひらく」ことを考える。

- ◆ 臨海部に立地する企業のアメニティ施設、企業緑地、敷地のシェア
- ◆ 海を持つエリアのコンセプトブック作成・共有し、各事業の結びつき強化や機能誘導を図るエリアブランディング
- ◆ 水際線の歩行者空間を顕在化する新しいルートの設定

機会

- ・臨海部の開発
- ・物流などへの機能転換
- ・防波堤の整備や民間の参入
- ・公有護岸のアップデート

先行事例



↑ 北浜テラス（水辺に顔を向ける）
（画像）大阪川床北浜テラスHP

↓ 金沢区の計画的な水辺



（画像）公共財団法人 横浜市緑の協会HP



↑ 天王洲アイル（水辺とエアーマネジメント）

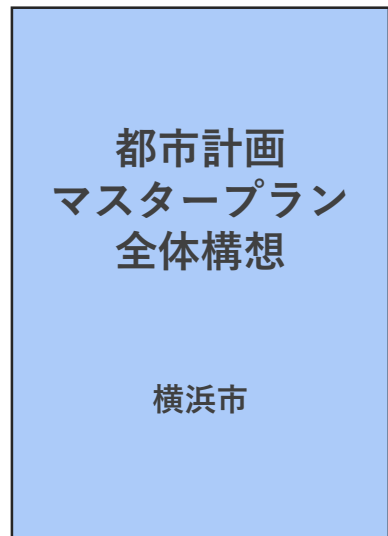
↓ 竹芝干潟（開発に伴う環境整備）



（画像）水辺総研HP

検討内容の発信

● 都市計画マスタープラン



● 広報ツール検討

「各局・企業・市民の各分野 × 都市デザイン」を目指す



広報パンフの改訂

新たな都市デザイン
+
これまでの取り組み



庁内外向け
シンポジウム・研究会等
の開催

都市マスへの位置づけ

都市計画マスタープラン

俯瞰

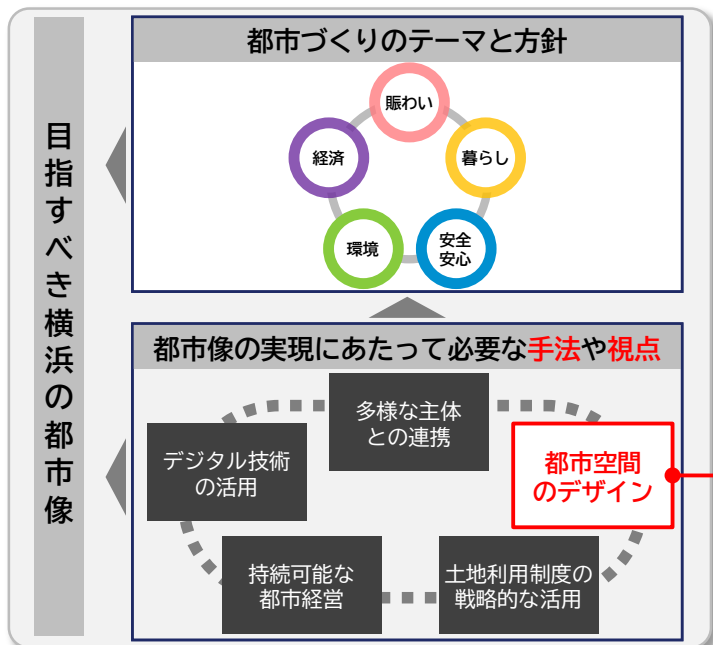
⇔

アイ
レ
ベ
ル

都市計画に関する基本的な方針であるとともに、
市民や企業などのまちづくりへの意欲的な参画を促し、
協働でまちづくりを進めるためのツール

都市デザイン 7つの取組み姿勢

都市マスなどの俯瞰的な計画をふまえ、
市民や企業などと共に都市空間や人々の活動も含めて
横浜らしい風景づくりを具体的に進めるための取組み姿勢



共通する考え方として
都市マス各所に反映

記載

1. 自然や歴史、地域の個性を未来に引き継ぐ
2. 個々人のあり方や、暮らしに寄り添う
3. 様々な主体や分野を横つなぎにして、まちの魅力を高める
4. 地域の主体性や創造性が発揮できるよう、環境を整える
5. 実験的な新しい取り組みを、積極的にすすめ、サポートする
6. エリアコンセプトを描き、共有する
7. 美しい、楽しいといった人の心を動かす都市をつくる

スケジュール

